

コーポラル・マイム芸術とダンス芸術は似たようなものだと思われるので、マイムに対する評価はダンスの別名という見方しかされていない。マイムはテーマとしてあるのままの不幸を取り上げるが、さまざまなテーマが波立っている海には貨物船や白い帆船も浮かんでいるのに、わざわざ不幸な船を選び取るといって非難する人たちがいる。彼らは不幸を屈曲と見るが、わたしたちにはまっすぐなものに見える。彼らは不幸をかぎ裂きと見るが、わたしたちには普通の布地に見える。彼らは不幸を災難と見るが、それこそ私たちの本質である。彼らが拒絶するような目障りなものに、わがマイムが熱中しなければ、もっと好きになってくれるだろう。このような人たちは、不幸とはほど遠いダンスとたもとを分かちたいわがマイムが消えてしまう方がもっと好ましいのだ。わたしたちを好まないことも一つの権利である。だが、不公平だと思うのは、マイムが進んで夜は眠りを揺さぶり、昼は消化を妨げながら、善良な人々の気持ちを暗くしていると、彼らが思いこんでいることだ。

「マイムの言葉-思考する身体」 エティエンヌ・ドゥクルー 1998年 ブリュッケ
p.91 不幸にも表現の権利を まえがき 1951年

